



## 西武鉄道 安全・安心への取り組み 2018

～お客さまが安心して暮らせる沿線を目指して～

地盤ネットホールディングス 「いい地盤の日アワード」大賞受賞！

西武鉄道株式会社（本社：埼玉県所沢市、社長：若林 久）では、お客さまから選ばれる沿線となるため、西武グループのグループビジョンに掲げている【常に、「安全」を基本にすべての事業・サービスを推進します。】という理念のもと、輸送の安全を確保することを最大の使命としております。

沿線にお住まいのお客さまや、ご利用のお客さまに安心してご利用いただけるよう、2018年もさまざまな取り組みをおこなってまいりました。このたび、当社における「安全・安心」にご利用いただくための各種取り組みをまとめましたのでご紹介します。

駅ホームの安全対策としては、ホームドアの設置を2020年を目途に設置をすすめており、池袋駅では2018年3月にホームドアの設置を完了しました。新井薬師前駅ではホーム隙間転落検知システムを設置し、曲線ホームにおいて列車とホームの隙間に転落したお客さまを発見するための実証実験を実施しております。また、11月には西武新宿駅にて自律移動型のAI監視カメラを搭載した警備ロボット「Perseusbot（ペルセウスボット）」の実証実験もおこない、駅構内の安全性の向上に努めています。

自然災害に備えた対策として、大地震を想定した総合復旧訓練や、BCP（事業継続計画）発動訓練・帰宅困難者訓練への参加協力などを実施しております。

さらに、良い地盤を走り、また安全に対する当社の企業姿勢が高く評価され、地盤ネットホールディングス株式会社より第1回「いい地盤の日アワード」の大賞を受賞しました。当社は東京都23区西部から埼玉県西部の堅固な地盤の上で鉄道事業を展開しており、池袋線においては、危険エリアが0の路線であるとの評価をいただきました。

今後も、地震や大雪、台風などの自然災害に備え、さまざまな安全対策や訓練を実施し、より多くのお客さまに更なる「安全・安心」を提供し、快適にご利用いただけるよう努力してまいります。

詳細は、別紙のとおりです。



「Perseusbot」の実証実験の様子



総合復旧訓練の様子

## 【別紙】

### 西武鉄道 2018年の安全・安心対策について

#### 駅構内の安全対策

##### 1. ホームドアの整備

2018年3月に池袋駅のホームドアの設置を完了しました。今後1日あたりの乗降人員10万人以上の駅（将来の想定含む）について、2020年度を目途とし、ホームドアの整備を計画します。

設置予定駅：練馬駅、西武新宿駅、高田馬場駅、所沢駅、国分寺駅（順不同）



ホームドア（池袋駅）

##### 2. 検知能力の高い障害物検知装置の実証試験の実施

池袋第8号踏切（池袋～椎名町駅間）にて踏切の安全対策として、検知能力の高い障害物検知装置を補助設備として使用して事故防止を図る実証試験を実施しました。今後は成果を分析して2019年度以降の本導入をめざします。



障害物検知装置（池袋8号踏切）

##### 3. 新井薬師前駅ホーム隙間転落検知システムの実証試験の実施

オムロン ソーシアルソリューションズ株式会社が開発を進めているホーム隙間転落検知システムを使用し、曲線ホームにおいて列車とホームの隙間に転落したお客さまを発見するための実証試験を実施します。本システムにより、列車停車中に列車とホームの隙間に転落したお客さまを高い精度で発見することが期待できます。



ホーム隙間転落検知システム

##### 4. 自律移動型のAI監視カメラ搭載警備ロボット実証実験の実施

2020年に向けて訪日観光客の増加に伴い、乗降客の急増が予測される首都圏の駅など公共交通機関においては、安全性向上や駅係員の警備・監視業務負荷軽減が課題となるなか、その解決策の一つとして、警備ロボットの導入が注目されています。西武鉄道では、アースアイズ、日本ユニシスとともに、ロボット導入による駅構内の安全性向上や駅係員の業務負荷軽減度合いを確認し、AI監視カメラ搭載警備ロボット「Perseusbot（ペルセウスロボット）」の実現性を検証する実証実験をおこないました。



「Perseusbot」実証実験の様子



## 自然災害に備えて

### 1. 総合復旧訓練の実施

2018年11月13日（火）玉川上水車両基地内において総合復旧訓練を実施しました。ここ数年国内で数多くの自然災害が発生していることを受け、震度6弱の大地震が発生した影響で、踏切道にて乗用車と電車が衝突し乗客に負傷者が多数出たという想定で実施しました。さらに災害後の対応方として「大規模災害に関する鉄道事業部門BCP（事業継続計画）」や「被害者支援計画」に基づく訓練を一部取り入れております。消防と連携した人命救助や、施設の被害状況の把握・復旧を主体とした訓練を通じて、一人ひとりの事故発生時における安全意識の高揚を目的に毎年実施しています。



総合復旧訓練の様子

### 2. 東日本大震災後のBCP発動訓練の実施・帰宅困難者訓練への参加協力

2013年4月に策定した東京湾北部地震を想定災害としたBCP（事業継続計画）に基づいた発動訓練を2015年より毎年実施しております。また、同日には列車の一旦停止および減速運転訓練を実施します。



BCP 訓練の様子

さらに、池袋駅などで自治体を中心となって帰宅困難者訓練を実施しており当社も参加・協力しております。

### 3. 法面の改良

列車運行の安全を確保するため、線路に面した法面などを改良することで斜面の安定化をはかり、土砂崩壊を防止して安全性向上に努めております。2016年8月に発生した台風9号により法面崩壊が発生した武蔵大和～西武遊園地駅間の法面につきましては、2017年12月に本復旧工事が完了しました。現在は反対側の斜面整備をすすめております。このほか昨年度は、吾野～西吾野駅間、芦ヶ久保～横瀬駅間で法面改良工事が完了し、今年度は東吾野～吾野駅間、西吾野～正丸駅間にて工事を施工しております。



法面（武蔵大和～西武遊園地駅間）

## 《地盤ネットホールディングス「いい地盤の日アワード」大賞を受賞》

東京都23区西部から埼玉県西部の堅固な地盤の上で鉄道事業を展開しており、沿線の「地盤安心スコア」が高いこと、また安全に対する企業姿勢を高く評価していただき、11月28日の“いい地盤の日”に「いい地盤の日アワード」大賞を受賞しました。石神井公園駅・所沢駅・上石神井駅・田無駅などの各駅では、特に高い評価をいただきました。また、池袋線は、危険エリアが0の路線です。当社はこれからも沿線にお住まいのお客さまに安心して暮らしていただけるよう、安全・安心を最優先に事業を進めてまいります。



いい地盤の日アワード表彰式の様子

### 地盤安心スコア

「地震による揺れやすさ」「浸水リスク」「液状化リスク」などから算出した地盤の安全性を100点満点で示す指標。池袋線・新宿線はともに高いスコアとなり高評価をいただきました。

池袋線 各駅平均 83点 ・ 新宿線 各駅平均 77点

### 《参考》

地盤ネットホールディングス ニュースリリース

<http://v4.eir-parts.net/v4Contents/View.aspx?template=announcement&sid=46748&code=6072>